

## 平成27年 久留米市政10大ニュース

### 1 位は『キラリ創生総合戦略を策定』

平成27年の久留米市政10大ニュースを次のとおり発表します。

順位	項目
1	<b>キラリ創生総合戦略を策定</b> ～今年度スタートした新総合計画第3次基本計画に即して
2	<b>久留米シティプラザの開館準備が着々と</b> ～開館日が決定し、建設工事も順調に進捗
3	<b>子ども・子育て支援新制度がスタート</b> ～くるめ子どもの笑顔プランに基づき、事業を推進
4	<b>1市4町合併から10周年</b> ～新市建設計画をほぼ達成し、校区コミュニティセンターや下水道の整備も進む
5	<b>全市立小・中学校への空調機設置が完了</b> ～快適な学習環境が整ったことを受け、夏季休業期間を短縮
6	<b>企業が続々と市内に進出</b> ～オフィスの立地が相次ぎ、自動車産業の頭脳拠点化も進展
7	<b>市議会議員選挙を実施</b> ～45人が立候補し、38人が当選
8	<b>ふるさと・くるめ応援寄付が大人気</b> ～上半期の寄付金額が全国9位に
9	<b>宮ノ陣クリーンセンターの建設が進む</b> ～リサイクル棟と環境交流プラザの工事もスタート
10	<b>自転車が似合うまちづくりを推進</b> ～コミュニティサイクル「くるクル」を導入
次点	◎道の駅くるめが大盛況 ◎生活困窮者自立支援センターを設置 ◎連携中枢都市圏の連携中枢都市を宣言 ◎よりみちバスの運行をスタート

#### ※選定の経緯

各部の10大ニュース全182項目の中から、各部の次長等で構成する広報戦略会議の議長(総合政策課長)、副議長(総務部次長・協働推進部次長)、広報課長が33項目を抽出。同会議の委員16名の順位付けを経て特別職などで協議・調整を行い、上記項目を決定しました。

# 平成27年 久留米市政10大ニュース

## 【1 位】

### キラリ創生総合戦略を策定

～今年度スタートした新総合計画第3次基本計画に即して

人口問題を都市づくりの総合的課題として捉え、平成31年度末の目標人口を30万5,000人と設定した新総合計画第3次基本計画が、4月にスタートしました。この目標の達成を戦略的に進めるため、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき10月に策定したのが「久留米市キラリ創生総合戦略」です。

まず、総合戦略の基礎とするために策定した「久留米市人口ビジョン」では、45年後の人口を25万9,000人と展望し、「若い世代の就労と、結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する」、「東京圏や福岡市への人口流出に歯止めをかける」、「人口減少・超高齢社会など時代を見据えた都市を構築する」の3つの目指すべき将来の方向性を示しました。

人口ビジョンを踏まえて策定したキラリ創生総合戦略では、人口30万5,000人の維持に向けて、今後5年間の基本目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめました。総合戦略の最重要課題として施策横断的に取り組む項目については、「キラリ政策パッケージ」を設定。「耳納北麓(職遊一体型)グリーンアルカディア創生」、「雇用・就業応援」、「移住・定住サポート」、「オール久留米で観光客獲得」の4つのパッケージを掲げ、戦略的に施策を進めていきます。

人口ビジョンとキラリ創生総合戦略は、産官学金労言や市民団体の皆さんとの幅広い意見交換を踏まえて策定しました。戦略の推進に当たっては、引き続き協働による取り組みが不可欠であり、市民や関係団体の皆さんと課題や目標を共有しながら、目標の達成に向けた施策を展開していきます。

## 【2 位】

### 久留米シティプラザの開館準備が着々と

～開館日が決定し、建設工事も順調に進捗

平成23年2月に、施設整備の方向性を発表して以来、将来の久留米市の発展・向上を目指し、心豊かな市民生活の実現、広域的な求心力づくり、街なかの賑わい創出に向けた戦略的な拠点施設として整備を進めてきた久留米シティプラザ。その開館に向けた取り組みをハード・ソフト両面から着実に進めました。

ハード面においては、11月に9番街区の建物が竣工。8番街区も、来年1月中旬の竣工に向けて、最終的な仕上げ工事が順調に進んでいます。一方ソフト面においては、3月に同プラザの設置目的や実施する事業、開館時間、使用時間、休館日、使用料などを定めた設置条例を制定しました。

7月には、これまでの「久留米シティプラザ推進室」を、5課で構成する「久留米シティプラザ」に再編。この新体制の下、開館日を28年4月27日に決定し、10月から施設使用の申し込み受け付けを開始しました。また、プレ事業の実施とともに、来年度事業に向けた取り組みとなる市民企画事業を公募し、97件の応募がありました。

さらに、開館年度を通したオープニングシリーズとして取り組む開館記念事業として、「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」のクラシックコンサートをはじめ、久留米ゆかりのアーティストの

コンサートや久留米大道芸祭など、各施設の特徴を活かした企画を実施することを決定。12月15日に発表しました。

今後、開館に向けた最終的な準備を進めながら、同プラザが久留米市のみならず県南地域全体の賑わいづくりをはじめとした、「文化」「活力」創造の拠点となるよう取り組んでいきます。

### 【3 位】

#### 子ども・子育て支援新制度がスタート

##### ～くるめ子どもの笑顔プランに基づき、事業を推進

すべての子どもたちが健やかに成長していくために、子どもの育ちと子育てを社会全体で支援する「子ども・子育て支援新制度」が4月にスタートしました。

久留米市は、3月に平成27年度からの5年間の事業計画「くるめ子どもの笑顔プラン」を策定。「子どもの笑顔があふれるまち」を目指して、保育所等の施設整備や保育士の確保といった待機児童解消に向けた取り組みのほか、学童保育所の整備等による児童の安全・安心な放課後の居場所の提供など、様々な子育て支援の充実に向けた取り組みを進めています。

また、市民サービスの向上と新制度への的確な対応に資するため、4月に子ども未来部の組織を再編。併せて、部内に「子ども総合相談窓口」を開設しました。同窓口では、保護者からの子育てに関する相談への対応をはじめ、子育てに困りごとを抱える家庭への子育て支援事業等の紹介・案内や、その後の継続的な相談支援などに取り組んでいます。

今後も「全国トップクラスの子育てしやすいまち」を目指して、子ども・子育て支援の充実に取り組んでいきます。

### 【4 位】

#### 1市4町合併から10周年

##### ～新市建設計画をほぼ達成し、校区コミュニティセンターや下水道の整備も進む

平成17年2月5日の、久留米市と田主丸町、北野町、城島町、三潴町の合併から、10周年を迎えました。この間、新市の一体的な発展を目指して策定した新市建設計画の取り組みを着実に推進し、計画をほぼ達成しました。

この10年間で、「田主丸地域保健センター等複合施設」「コスモすまいる北野」「城島げんきかん」「みづま総合体育館」といった、地域の核となる施設の整備が進みました。23年には、小学校区単位のコミュニティ組織が市全域で設立され、各地域で主体的にまちづくりを進める基盤が整いました。加えて26年度末までに、まちづくり活動の拠点となる校区コミュニティセンターを全46校区に設置。同センターを活用した様々な事業が行われるようになりました。また、下水道の整備などによる身近な生活環境も着実に向上しました。

さらに、エリアが広がったことで、フルーツや花木、酒蔵といった各地域の魅力が一体となって、市のブランド力が向上し、地域ごとの特色を生かした観光振興の取り組みが可能になるとともに、事務や事業の体制を見直して職員数を削減するなど、合併によるスケールメリットを生かした行政運営の効率化も進みました。

合併10周年を記念し、5月24日に文化センター共同ホールで式典と講演会を開催。スライドショーで新市の10年間の歩みを振り返り、合併後の市の発展に尽力した地域審議会委員の皆さん102人に感謝状を贈呈しました。

## 【5 位】

### 全市立小・中学校への空調機設置が完了

#### ～快適な学習環境が整ったことを受け、夏季休業期間を短縮

「安全・安心」から、より質の高い「快適」な教育環境の構築を目指し、夏季における高温化対策として、平成25年度から取り組んできた市立小・中学校への空調機の設置。3月までに全普通教室への設置が完了し、夏場でも快適に学習できる環境が整いました。

この環境を生かし、教師と児童生徒が触れ合う時間を確保するとともに、学習内容の習熟に応じた指導などを充実するため、今年度から市立小・中学校と特別支援学校の夏休み期間を1週間短縮。この期間に、各学校の状況に応じた補充学習や水泳教室を行うなど、学校教育活動の充実を図りました。

## 【6 位】

### 企業が続々と市内に進出

#### ～オフィスの立地が相次ぎ、自動車産業の頭脳拠点化も進展

4月のデジタルゲイト(株)をはじめ、7月に(株)杉養蜂園、9月にFindJapan福岡(株)が、相次いで市内にコールセンターを開設しました。また、8月には化粧品原料開発企業の(株)ゼンシンが研究開発センターを市内に設置。11月には、コンピュータソフトウェア開発の(株)ユー・エス・イーが、クラウドサービスの開発拠点を開設しました。この開発拠点の設置は、本社機能移転計画の福岡県内第1号として認定されました。

一方、吉本工業団地内に、自動車エンジン等の性能評価や技術開発の拠点となる「ダイハツグループ九州開発センター」が竣工し、8月に開所式が行われました。さらに10月には、同団地内で東プレ九州(株)が、自動車プレス部品製造のコア技術の結晶ともいえる金型生産を行う「技術センター」の竣工式を挙行。久留米市東部地区において、自動車産業の頭脳拠点化が進んでいます。

## 【7 位】

### 市議会議員選挙を実施

#### ～45人が立候補し、38人が当選

4月26日に、久留米市議会議員選挙が執り行われました。投票率は48.55%でした。任期は5月2日から平成31年5月1日までの4年間です。

また、5月14日に開かれた臨時議会で、第49代久留米市議会議長に別府好幸議員が、第51代副議長に森多三郎議員が選出されました。

## 【8 位】

### ふるさと・くるめ応援寄付が大人気

#### ～上半期の寄付金額が全国9位に

総務省が10月に発表した4月から9月までの自治体別寄付金額の全国ランキングにおいて、久留米市が6億4,100万円で第9位となりました。その後も、全国から多くの寄付が寄せられ、11月末までの実績は約11億6,000万円に上りました。この金額は、平成26年度の実績3,371万円の約34倍になります。

こうした人気ぶりは、27年4月の税制改正におけるふるさと納税制度の拡充に合わせて、記念品を充実するとともに、ポイント制やインターネットでの申し込みを導入するなど、大幅なリニューアルを行ったことが要因と考えられます。

記念品は、「Made in KURUME」をコンセプトに、農産物や酒、伝統工芸品、ゴム産業商品、医療など、市内で生産されているものや、市にゆかりのあるものを多数用意。今後もふるさと納税を通じて、キラリ輝く久留米の魅力を全国に発信していきます。

## 【9 位】

### 宮ノ陣クリーンセンターの建設が進む

#### ～リサイクル棟と環境交流プラザの工事もスタート

宮ノ陣町八丁島地区に整備を進めている宮ノ陣クリーンセンター。その中核となる「工場棟」においては、焼却炉や排ガス処理設備などの主要なプラント機器の据付が完了。現在、床や外壁、屋根などの建築工事を進めています。

2月には、市内に分散しているペットボトルなどの資源物の回収・処理拠点を同センターに集約し、効率的にリサイクルする「リサイクル棟」の建築工事に着工しました。現在、外壁や屋根などの建築工事を行っており、併せて、ペットボトルやカン、ビンの圧縮梱包機や選別機などのプラント機器の据付設置工事も進めています。

また、同月、センター全体を総合的に管理するための事務室をはじめ、環境学習ルームやリサイクル工房などを備える「環境交流プラザ」の建築工事に着工。現在、外壁や渡り廊下などの建築工事を行っています。

平成28年度の稼働に向けて、着実に各施設の整備が進んでいます。

## 【10 位】

### 自転車が似合うまちづくりを推進

#### ～コミュニティサイクル「くるクル」を導入

まちを楽しみながら、自転車で快適に効率よく移動できる「自転車が似合うまち」の実現に向けた取り組みの一つとして、自転車を持っていない市民の皆さんや観光客などに活用してもらうことを目的に、6月27日、コミュニティサイクル「くるクル」を導入しました。

また、同月「くるめシンボルロード」(JR久留米駅～西鉄久留米駅)において、国・県・市が連携し、自転車走行空間や歩道照明などを整備する事業に着手。9月には、その一部となる「けやき通り」(JR久留米駅～明治通り)に自転車走行空間が完成し、完成式典と地元小学生などを対象にした自転車の安全教室を開催しました。

11月には、「自転車が似合うまち」の実現に向けた政策の方針や施策を示す「自転車利用促進計画」を策定。同計画に基づき、誰もが自転車に乗りたくなる環境づくりを進めていきます。

## <次 点>

### ◎道の駅くるめが大盛況

オープンから8年目を迎えた道の駅くるめが、世界最大級の旅行サイトの「行って良かった！道の駅ランキング2015」で、全国1,059駅の第10位に選ばれました。順位は実際の利用者の声を基に決定。取れたての新鮮な野菜の品ぞろえの豊富さなどが、高く評価されました。

11月末時点で同駅直売館の売上額が7億円に達し、来場者数も153万人を突破。いずれも過去最高のペースで、同駅は連日多くの来訪者で賑わっています。

### ◎生活困窮者自立支援センターを設置

6月1日、3階310会議室に生活困窮者自立支援センターを設置しました。同センターは、生活に困っている人が直面する生活全般の課題を解決し、経済的・社会的に自立するための総合的な相談窓口です。

支援の対象は、低所得の人や長く失業している人、働いた経験が無い人や引きこもりで悩んでいる人などで、相談支援員や就労支援員といった専門のスタッフが、ハローワークや社会福祉協議会などと連携して相談支援を展開しています。

### ◎連携中枢都市圏の連携中枢都市を宣言

久留米市は、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町と「連携中枢都市圏」を形成し、活力と魅力あふれる圏域づくりに取り組みます。その第一歩として、11月2日、この圏域の中心的役割を担う「連携中枢都市」になることを宣言しました。

「雇用の創出」「流出人口の抑制、圏域外からの移住・定住促進、交流人口の増加」「結婚、子育て環境づくり」「快適な生活環境の整備」の視点の下、圏域内への定住や移住、交流人口の増加につながる事業などに取り組んでいきます。

### ◎よりみちバスの運行をスタート

自動車を自由に運転することができない高齢者等の移動制約者に対する買物や通院などの日々の移動手段を確保することを目的として、12月18日、既存の公共交通を補完し、連携する「よりみちバス」の運行を北野町で開始しました。

よりみちバスは、地域の皆さんや交通事業者と協働した取り組みで、地域の生活拠点やその周辺部に順次、導入していく予定です。現在、城島町での運行開始に向けて準備を進めています。

#### 【問合せ先】

担当課：総合政策部 広報課

担当者：坂本、高尾

連絡先：TEL：0942-30-9119

FAX：0942-30-9702